

## 令和5年度川口賞報告書

報告者：大蘆 彩夏（岡山大学大学院環境生命自然科学研究科環境生命自然科学専攻）

参加学会：International Society for Regenerative Biology

開催場所：Vienna, Austria

日程：2023年9月3日~6日

発表数：口頭発表31件、ポスター発表115件

### 参加報告

初めての国際会議(International Society for Regenerative Biology)に川口賞の支援のもと参加してまいりましたので、報告いたします。私が参加した International Society for Regenerative Biology は今回が第一回の開催で、再生生物研究者が集まる国際会議です。プラナリアやゼブラフィッシュはもちろんのこと、哺乳類やトカゲや刺胞動物などの動物を扱う研究に関する演題もあり、様々な観点から新しい知見を学ぶことができました。限られた分野にも関わらず多くの参加者が出席し、総勢200人以上が参加したそうです。会議場は常に満員で立ち見の方も続出し、ポスター会場も動きがとりにくいほどに常に賑わっていました。朝の9時から夜の22時までと言う長丁場な会議にも関わらず、すべてのセッションで活発な議論が行われており、再生分野の研究者の熱気を身近で感じることができました。会場は Research Institute of Molecular Pathology (IMP) というウィーン郊外にある研究所でしたが、近くに大学や科学機器・試薬メーカーの販売店等があり日本との違いも感じることができました。IMPには再生生物学を牽引するチームがあり、そのラボ内を少し見学させていただくことができました。想像を超える実験動物が管理されており、スケールの大きさに驚愕したことを鮮明に覚えています。

発表では、シングルセル解析やゲノム編集を用いた実験が行われており、海外の技術力の高さを実感しました。シングルセル解析については発表演題のほとんどで実施されていたことが非常に印象的でした。私はポスター発表を行いました。様々なバックグラウンドの方に興味を持っていただき、活発に議論を行うことができました。また、研究に関するだけでなく、キャリアについてもお話をすることができました。ラフに会話ができるということが対面学会の良い点だと改めて感じました。国際会議を通じて今まで以上に多くの研究、人と出会うことができました。同時に、今後の発展のために自分が身につけなければならない点も学ぶことができました。この貴重な経験を糧に今後、更なる発展を目指し挑戦、努力する決意を新たにすることができました。博士課程1年でこのような貴重な経験をできたこと、サポートしていただいた周囲の皆様に感謝いたします。

自費でのヨーロッパへの国際会議への参加は学生にとってはハードルが高いものですが、今回の参加に際しご支援をいただけたことで初めての国際会議の参加が叶いました。このような貴重な機会をご支援いただけましたこと、故川口四郎先生並びに日本動物学会関係者各位に改めて心より深く感謝申し上げます。